

Title	3回目のフィリピンのミンダナオ島でのジュゴン調査
Author(s)	久保田, 信
Citation	うみひろも (2014), 148: 4-6
Issue Date	2014-12-16
URL	http://hdl.handle.net/2433/192309
Right	© 海の生き物を守る会; 許諾条件により、墨消しを施している部分があります.
Type	Article
Textversion	publisher

DugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugong

3 回目のフィリピンのミンダナオ島でのジュゴン調査

久保田 信

2013 年 3 月初旬、フィリピン最南端のミンダナオ島でのジュゴン調査隊に初めて加わった。その次の参加は 2014 年 2 月下旬、今回で連続 3 回となった。2014 年 12 月上旬の調査では、これまでと同様の約 1 週間の調査訪問ができた。いずれも島の南部に位置するマチ Mati とマリタ Malita での調査である。マニラから飛行機を乗り継いで降り立ったミンダナオ島ダバオ Davao 空港から東西へ車で、それぞれ数時間ほどの小さな町である。全て向井宏先生が 10 年以上も前から調査されている場所である。



ダバオ東方の Mati ではダヒカン Dahican という所にあるサーフ天国の美しい砂浜（写真）に面したりリゾートホテルにいつも宿泊する。今回、ここに到着後、すぐにジュゴンを目撃できた。目の前に広がるマヨ湾 Mayo Bay にはジュゴンが生息していることは知らされていたが、実際にこの目でこの現場で見たのは今回が初めてだった。12 月 2 日夕方、恐らく 1 頭が 2 度海面に現れた。

Dahican の磯浜には漂着物が多い。多種多様な貝殻や種子などが収集できる。南国ムードたっぷりのメニューだが、小生が勤務している京都大学瀬戸臨海実験所が所在する和歌山県白浜町沿岸に生息している貝類も多く見られて黒潮の恵みを体得できるし、漂着する種子にも南方へのつながりが分かる。ここでのメインは Mayo Bay とは反対側にあるプハダ湾 Pujada Bay で、ジュゴンのはみ跡などを調査する。この波静かな湾で、カウンターパートの DOSCST（東ダバオ州立資源科学大学）の Lea さんやフィリピン大学の Fortes さんら一行もずっと調査隊のメンバーである。今回、東大の山室真澄さんと新人チームであるウインディーネットの小川年弘さんらの 5 名が凄腕の測量機器を用いた海草やジュゴンの調査を実施された。

向井チームはマサオ Masao にあるリゾートホテル前から現地製の船をチャーターし、湾口付近にある 2 つの小島の傍を回って戻ってくる周遊の行程で、主に海草のはみ跡調査を実施した。海草ベッドの中に線状のはみ跡がいくつもあった。シュノーケリング観察で小生は確認した。前回も同じ場所に今回と同じようなはみ跡があった。ジュゴンが時折ここで摂餌しているのは確かである。現地ではこれに関連した講義も聞ける。Fortes 先生が 1 時間ほどされた。

Malita へは半日 Mati から移動するが、その途上、Davao でダイビング器材をショップで一式借りる。その翌日はカウンターパートの SPAMAST の Ruth さんのいつものお世話で市役所や歴史博物館などをまわった後、講演会が開催された。その後、ジュゴンが毎回目撃できるいつもの現場へも下見に行った。時ならぬ巨大台風が接近しており、波の状態が気になりだったが案外荒れていなかった。現地で観察をしている方から早朝にジュゴン 3 頭が目撃できたとの情報を頂けた。カウンターパートが昼食も夕食もお世話してくださり、今回はカラオケのバックミュージックも付属しており、筆者も幾つかを気持ちよく歌えた。現地の人は相当な歌好きである。

その翌日と翌々日はジュゴンと海草の調査。筆者は岸からいつものように海面に息継ぎするジュゴンを確認する。今回は過去 2 回ほどには熱心に観察しなかったが、初日に 1 回、その次の日には 12 回以上が目撃できた（写真）。いずれも午前中に限られており、Mati の場合とは異なっていた。出現をねらった写真や動画撮影は難物である。今回は初めて 2 頭が並んで出現したのも目撃できた。現地の方によると子供もいるそうである。ジュゴンは何年にも一度一頭の子供を産むのでなかなか子供は見られ



ないとのことである。観察の休み中には漂着物調査も実施する。**Malita**の砂浜には種子は比較的多く漂着しているが、貝類やサンゴなどの海洋生物は極めて少ないのが寂しい。

Malitaの朝食は24時間オープンのホテル近くのレストランで色々なものが食べられる。昼食や夕食はカウンターパートがおもてなしをしてくださることが多い。早朝に散歩すると、町の人々が声をかけて挨拶してくださる。原色の花々が咲いており、果物も色々実っている。マーケットの魚市場コーナーに行くと、魚が中心に売られているがいつもの貝や海藻もある。写真を撮らせてもらおうと、いつでも皆人なつくく、いっしょに写ろうとする方々が多い。

瞬く間に時間が過ぎてゆく……。マンゴスチンは時期が終わり、ドリアンは時期が早すぎたが、色々なトロピカルフルーツが今回も食べられた。やっぱりココヤシは定番だが有り難い。今回は山へのエクスカッションもあり、森林性の動物、特にフィリピンワシの仲間も観察できた。最後に、今回の2カ所の調査では2チームにより色々な観察方法がとられたが、ジュゴンの姿が双方ともカメラでばっちり撮ることができたのは何よりだった。

DugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugongdugonDugong